

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ①

平成29年7月8日(土)～9日(日)

【対象】幼児と保護者

【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
7月8日(土)	10:40～11:00 受付	開会式	昼食	運動遊び 「体を使って、いっぱい遊ぼう」 プレイホール ↓ 冒険の森			夕べのつどい	入浴	夕食	(親)講義 (幼児)絵本読み聞かせ		就寝	
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14				
7月9日(日)	起床	朝のこたし	朝食	荷物整理	清掃確認	親子運動遊び	親子で料理に挑戦 ・ビーフシチュー ・パン ・バター	閉会式	14:20 解散				

～参加者～

10 家族 (大人：13 名， 幼児：11 名) 計：24 名

(長野県， 東京都)



～活動トピックス～

活動Ⅰ 運動遊び

「体を使っていっぱい遊ぼう」

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下、まずはプレイホールで幼児が運動遊びを行った。次にプレイホールでの動きを屋外で応用するために「冒険の森」へ移動した。「懸垂力」「支持力」「跳躍力」を身につけるために「コアラ」「サル」「クマ」「ウサギ」の4種類の動物になりきって、楽しみながら運動をしていた。





活動Ⅱ 講義（親対象）

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

「親子の絆づくりは10歳まで」と題して、親向けの講義を柳澤先生にいただいた。最新の脳科学をもとに、運動することで神経が発達すること、神経の発達は10歳でピークに達することを学び、参加者の皆さんは幼児期の運動の大切さを実感したようだ。

活動Ⅱ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：絵本専門士 谷口和恵氏

谷口先生のキャンプのプログラムにマッチングさせた絵本の選択と工夫された読み方とで、幼児たちは時間のたつのも忘れて読み聞かせに夢中になっていた。ボランティアにとっては、今後のボランティア活動に活かすことができるであろう。



活動Ⅲ 親子運動遊び

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

家庭でもできる親子運動遊びを柳澤先生からご指導いただいた。10月と1月にも同じメンバーでキャンプがあるので、それまでに各家庭で最低でも週に1回の親子運動遊びをするようにとご指導をいただいた。



活動Ⅳ 親子で料理に挑戦

メニュー「ビーフシチュー」「パン」「バター」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

親子やグループで協力して野外調理を行った。まずは、パン生地をこねて発酵させ、ダッジオープンで焼いた。次にビーフシチューの食材を切ったり、鍋で煮たりした。最後にバターをペットボトルで作った。幼児もできることを分担し、ふだん家庭ではできない料理を体験することができた。

～参加者の声～

- 今の時期が子どもの人生においてすごく大切な時期だということが、よくわかった。
- 運動遊びをしている時の我が子の表情が、今までに見たことがないくらいうれしそうだった。
- 柳澤先生の指導の良さを改めて感じた。
- 家に帰ってからも親子運動遊びを続けていきたい。
- 一緒に料理を作ることがふだんないので、今回体験できてよかった。
- パンもバターも思ったより簡単においしく作れたのでびっくりした。

～成果と課題～

- 今回初めて絵本専門士の方に読み聞かせをお願いしたが、子供達を飽きさせない様々な工夫が凝らされており、職員やボランティアにとってもよい体験となった。
- 主催事業の参加者だからといって特別扱いをすることなく、宿泊棟の掃除や野外炊飯の片づけも最後までしていただいた。自然の家の使い方を正しく知ってもらえたと思う。
- 3人の講師の先生や自然の家の職員及びボランティアに対する良い評価の言葉をたくさんいただいた。
- キャンプファイヤーを子供と一緒に体験してみたいという意見が多かった。10月のキャンプでは希望を実現できるように計画したい。